

漫歩獨語

法學士省 吾 生

◎ 「漫ろ歩きして獨り言ふ」私は今並木の生ひ茂つた人通りの少い田舎の國道を一人悠々と歩いてゐるのだ。

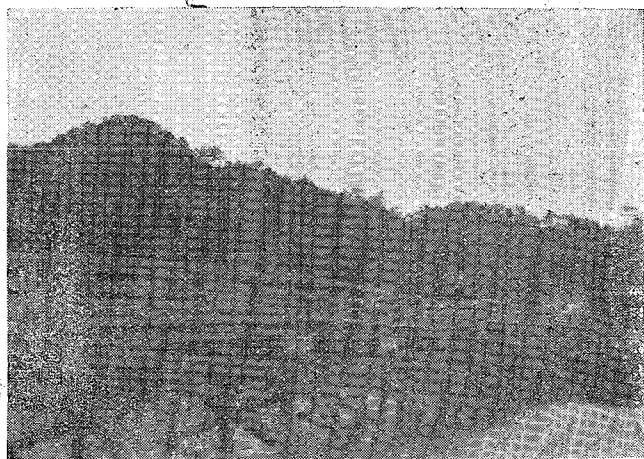
◎ 大正九年に道路法が施行せらるゝこととなつて、久しい間混沌たる法制の下に不完全な管理を受けてゐた我國の大路小路は、やうやくのことで統一的管理の下に立つこととなつた。之に續いて政府は三十年計劃といふ珍らしく大きな道路改良計劃を樹立し、各府縣や市町村でも之と歩調を合せて種々の道路改良計劃を實施するようになつたので、こゝに我國の道路は劃時代的な飛躍的な發

達を示さうとしたのであつた。お恥しい我國の道路も、やがては歐米諸國の道路に較べて、聊かも遜色のないような立派なものになるであらうといふ曙光は、確かに見受けることが出來た、當時の中央及地方の路政當局者の意氣は頗る軒昂たるものがあつて、私は私かに期待に胸を戰かせながら我國道路の將來を祝福したものであつた。指を折つて數ふれば爾來數年の間に相當見るべき成績は擧つてゐる、何々の渡といふ古い歴史のある大河に數十萬の巨資を投じて、十數連のトラス堂々と列ぶ大鐵橋の架せられたのも少くはない、何々越の嶮路として知られてゐるところに大きな隧道が出來たのもある、一時は私

等の期待は日に月に實現されて行くように思はれた。

あらゆる道路改良計劃の根幹を爲す所の政府の三十年計

◎ 私 は此等の事業計劃をしてべ
グした道に自動車を走らすように
とまでは行かなくても、せめては
今私の歩きつゝある此の凹凸の少
い砂利道に馬車を驅る位には圓滑
に進ませ度いものだと心私かに念
じたのであつたが、我國道路改良
事業の前途には矢張り嶮岨な山路
も流の急な大河も横たはつてゐた
世界的に吹きまくつて來た不景氣
風にあふられて、漸く芽を出した
か出さぬかといふ嫩芽の内に、早
くも事業繰延、事業打切等といふ
ような慘憺たる運命に遭遇せねばならなかつた。我國の



(圖四第) 山 陰 災 害 寫 眞

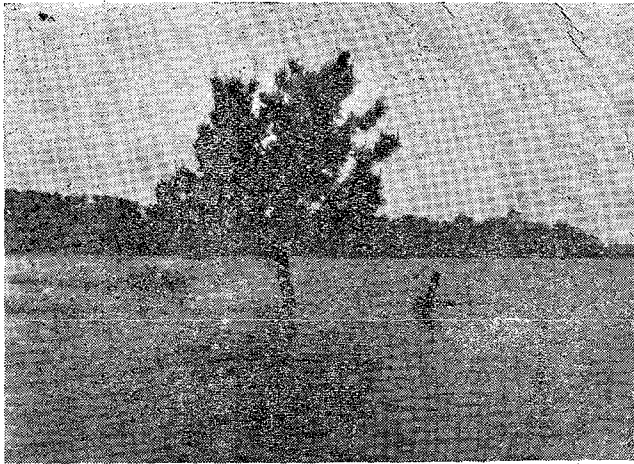
劃も、豫定通りの豫算を得ること
の出來たのは僅かに當初の三箇年
のみに過ぎずして、其後は朝に一
城を落され夕に又一城を失ふとい
ふ情ない状態を續け、大正十四年
度には辛じて三百五十萬圓といふ
孤壘を死守し得たといふに過ぎな
い有様である。本枯れて末衰ふる
は自然の事理である、政府の計劃
がかくの如き状態となつては、此
の計劃に刺戟せられ此の計劃を親
柱と頼んで起り來つた所の各地方
に於ける道路改良計劃が、どうし
て獨り滞なく進行して行くことが

出來ようか、三百五十萬圓は豫定の一千萬圓に比して僅

か三割にも足りないが、しかし政府の此の計劃はまだ命脈をつないでゐる、時來りなば一千万圓にも又それ以上にも伸得るといふ可能性がある、之に反して地方の計劃には全然打切の悲運に遭つたものが少くない、死屍累々とまでは行かないにしても、氣息奄奄僅かに余喘を保つに過ぎないといふ慘狀である、私は道路法發布當時や改良計劃樹立當時の意氣込を回想して、轉た感慨無量の念の湧き來るを禁じ得ない。

然しながらかくの如き道路改良計劃の運命——道路改良計劃に對するかくの如き態度——かくの如き消極的政策——は果

の言分である。



(圖五第) 眞寫害災陰山

して國家の爲に大局より觀察して利益となるであらうか、又國民の要望と相背馳する所なきを得るであらうか？
私は此の橋の欄干に腰打かけ一休みしながら考へよう。

經濟界の不況を根本的に立直し、財政の基礎を鞏固にする爲には思ひ切つた消極切詰政策を斷行しなければならぬ、假令國利民福を増進することを目的とする事業であつても、一時の不便は之を堪え忍んで、出来るだけ縮少し繰延打切を爲さねばならぬ、これこそ後世に於ける發展の潛勢力を涵養する所以であるといふのが一方

我國現下の經濟並財政の狀態は、固より整理を必要とするけれども、味噌も糞も一緒にして盲滅法手當り次第に消極の鉋を振り廻はすのはひどい、それぢやあ政治家としてあまりに能がなさ

過ぎるぢやないか、整理とは一網打盡を意味するものではない、適否急不急の選擇を意味するものである、更に現在存する不適不急の事業を廢止して新に之に代る適切緊急の事業を起すことさへも意味してゐる、整理と萎縮との相違は即ち此の點に存してゐるのである、經濟界の行詰を打開し、不景氣の趨勢を好景氣に轉回せしむるの策は、決して一網打盡政策ではなくして思慮ある選擇



(圖六第) 寫寫害災陰山

的整理政策でなければならぬといふのが又一方の言分である。

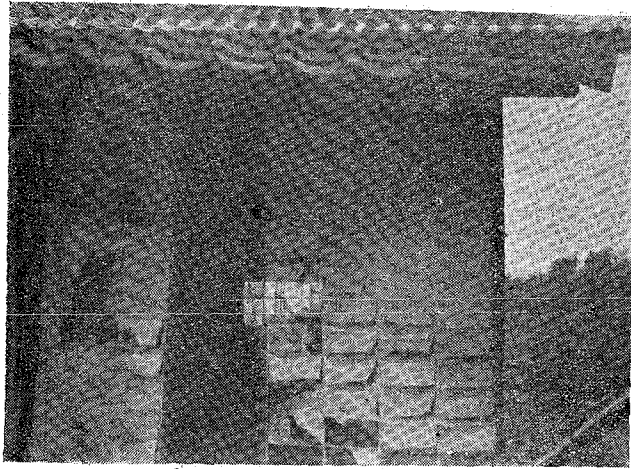
前の論者は折角樹立し得た、道路改良事業をも十把一

括けの中に入れて投げ捨ててしまはふとする、後の論者は道路改良事業は國民の活動を敏活至便ならしむるものであつて、これこそ不景氣挽回策中屈指の一であるとする。

誰か烏の雌雄を知らんやといふことがあるが、此の二つの言分の雌雄の判別はそんなに六ヶ敷いものではあるまい、此誌本號紹介欄に報導せられてゐる桐生市の道路改良事業が、即ち其の生きた審判官である。

桐生市は古來有名なる機業の中心地であり、織物輸出の關係上歐米諸國を視察して來た人も頗る多いといふ、従つて所謂有志者なる人々は随分進んだ頭の持主であり、延いて一般市民の頭の平均レベルも亦他の地に比して比較的高いと推測される、市民の頭が進んで居れば、また一步世に先んじたことを企てたり行つたりするのは、當然のことである。

道路管理者が調査／＼で日を送つたり、財源難を唯一の遁辭として因循姑息な態度を取り偷安の夢をむさぼつてゐるのを見て決して黙つてはゐない、道路



(圖七第) 眞寫害災陰山

の現状より生じてゐる不利益と之を改良して得べき利益

とを衡量して「さて管理者が愚圖愚圖してゐらつしやるならば私共の手で行らせて載き度い」と出るのはもつともな話である。人の好い管理者は「公德心の發露である我が市民は教養が高い」と有頂天に喜んで直ちに之を許可する、いづくんど知らん、それは管理者に對する一種の不信の表示とも見られないことはない、尤も此の不信は世俗に所謂羽織ごろつきなどと稱せられる有志者諸君の絶叫し給ふ不信——ごまかさうと横車を押さうと自分達の負擔は出

來るだけ少くしておいて、さて自分達の地方の道路や橋

梁が少しでも破損しようものなら直ちに大聲疾呼して道

判別する生きた審判官ではあるまいか。

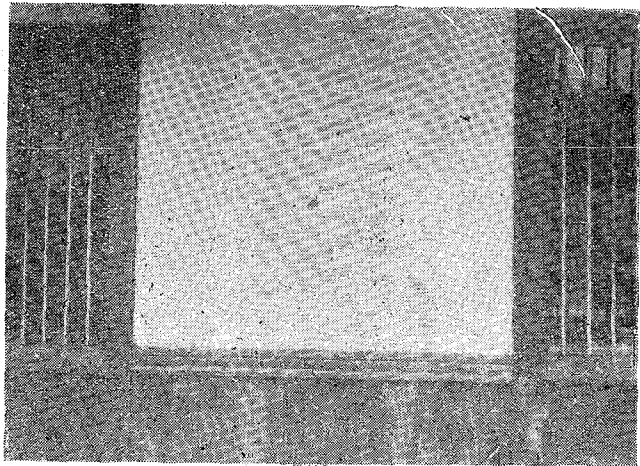
◎

路管理者の責任呼はり無能呼はりをするといふような、我利々々主義を主張し以て郷黨の人氣を集めようといふ魂膽から出る不信任とは頗る趣が違ふ、その差たるや嘗にお月様とすつほんの比のみではない、道路管理者は不信任を表示されながらも甘んじて之を受け進んで之を援助し、又世上に向つて之を吹聴せずには居られないのである。

こう考ふれば道路法第二十四條の出願工事は、道路管理者に對する一種の不信任の表示であるが、

此の不信任の表示こそは先に列べた二つの言分の雌雄を

追つばらひの厄除神と考へてゐるのである。頭の低い爲



(圖八第) 眞寫 害災陰山

不景氣なるが故に焦眉の急に迫つてゐる道路改良事業さへも、打切るべしと消極論者は言ふ、然らば桐生市は不景氣ではないのであらうか、否々織物の大生産地たる桐生市は全國でも最も不景氣風に悩まされてゐる地であらう、しかも進んだ頭の持主たる桐生市の有志者は不景氣なるが故にこそ却つて思ひ切つて數十萬圓の私財を持ちよつて道路の大改良計劃を自分の手によつて企劃したのである、道路改良事業の實行を以て不景氣風

政者が辨慶のように、あたりかまはず盲滅法消極の癡刀を振りまはすと、頭の高い有志者は牛若丸のように道路法第二十四條といふ帯刃を取つて思ふように其の目的を達成する。

民の望は抑へ難いものである。

本誌前月號「土木主任官會議を覗いて」の中に小原和歌山縣土木課長が土木主任會議で縣が道路改良事業を實行しようとしても起債は許されず、増税は餘力があつても、尙更許されずまるで手も足も出せないといふ始末なので、窮餘の一策として「改良された道路に於て乗合自動車を経営せしむる方針を以て乗合自動車會社を設立せしめ、會社は五十萬圓を投じて道路を改良し、縣は十年間に毎年五萬圓宛を會社に寄附し、會社が年八朱の配當を爲し能はざる場合に於ては、八朱に達するまで縣が補給する」といふ方法を以て道路改良事業を完成しようと企ててゐる旨の説明をしたといふのに對し、筆者田中生

は「此説明を聞いた吾人は、常に主張するが如く現内閣の方針として地方の財力を顧慮することなく、全國一律に財政緊縮を命令したことが間違つて居ることを如實に物語つたことを痛感すると共に、此の如き窮した方策を採つてまで、尙地方道路の改良に盡さむとする小原和歌山に對して深甚の敬意を表し將來の努力を希ふ」と書いて居られたが、方法こそ異なれ民の望は抑へ難いといふ點に於ては桐生市の例と全く同じである。實に抑へ難きは民の望である。

私は橋の欄干に腰かけて長い間獨り言をいつてゐた。下を見下せば清らかな水の流である、私はふと偉業を成し給ふた 明治大帝の内助者照憲皇太后の御製を懷ふ。

淺しとて せげはあふる、川水の

◎ ころや民の心なるらむ

又歩き始めよう。

桐生市の有志者の道路改良事業を賞めたついでにもう一つ賞めておこう、「東京の郊外を見よ、市會議員が待合で賭博を娛し、議事堂で血の雨を降らし、當局者は徒らに惰眠をむさほつてゐる内に、溢れ出る市民は田圃や芋畑の中にドシ／＼トタン葦のバラツク家屋を建てて行く

野趣深き武藏野はムザ／＼と破壊されて無計劃無秩序に町が廣がつて行く、そこにチブス菌が蔓延する、白晝窃盜強盜が横行する、毎夜／＼放火が行はれる、……………

何故何より先に道路、それから上水道下水道等を築造してかゝらないのか、イギリスを見よ、アメリカを見よ、

——を見よ——を見よ等」とは常に耳にすることである、こんなことは敢て遠大の理想を有する達識慧眼の大政治家を俟たなくても、多少先見の眼力を備へた人なら誰にでも分り切つた事理であるのだが、我國に於て行はれた例は頗る稀である、ところが桐生市の有志者は之を實行したのである、桐生市の郊外には田の中、畑の中に

廣い直線道路が幾本も出来てゐる、今ではまだ敷きならされた砂利の間から青い雜草が頭を擡げてゐる所もあるが、やがては十年をも待たない間にその沿道に商家連擔して立派な市街を構成するに至るであらうと思ふと愉快でたまらない。

◎

道路法が施行せられて全國の大路小路に亘つて確固たる管理者が出来た、誠に結構なことであつた、しかし物に一利一害は免れ得ざる數である、立派なしつかりした管理者が出来たとすると今まで色々親切に面倒を見てくれて居た人々はもうすつかり手を引いてしまつてかまつてくれなくなつた傾がありはすまいか、最近あらちちらで漸くこの事に氣がつき始めたようである、「願フニ地元住民ニ於テ其關係道路ノ維持保全ニ協力スルハ實ニ社會奉仕ノ美風ニシテ多年馴致セラレタル古來ノ良俗ナリトス然ルニ近年道路ニ關スル法制ノ發布ト共ニ地元住民ハ

法令上直接道路保全ノ義務ナキヲ理由トシテ之ヲ一ニ管理廳ノ爲ス所ニ放任シテ敢テ顧ミス古來ノ良俗漸ク頹廢スルニ至リタルハ深ク遺憾トスル所ナリ」といふのが廣島縣知事の道路共進會規則制定に當つて最近縣民に發した諭告の一節である（本誌前月號一頁參照）巧にも言ひ當てたり突である。

道路を利用し之によつて日々夜々に利益を蒙る者は管理者ではあるまい、法律上の責任がないからといふので自分達の利用する道路が悪からうが破損してゐるようが一向顧みず、只管理者を罵るのみをこれ事とするのが果して立憲國の國民であり、自治團體の公民といふ者であらうか、法治國といふのもそんな意味ではなからう。

私はこゝで立止つてステッキを打振つていふ。

爲政者も醒めよ、管理者も醒めよ、國民も醒めよ、

若し爲政者が辨慶のような薙刀を振りまはし、管理者が萎縮してゐるならば、頭の進んだ國民は牛若丸のよう

に右に左に身をかはして自分の道路を自ら良くする方策を考究せよ、道路は爲政者や管理者のものではなく我等の道路であるからである。

◎

「漫ろ歩きして獨り言ふ」といふのが私の題であつたがもう大分長くなつた、私は大分遠い道を歩いたに違ひない、家路をたどることにしよう。（終）

◇×———◇×

◆盛夏炎熱下の現世

- ◇ 國有鐵道の收入激減
- ◇ 郵便貯金の減少
- ◇ 日用物價の非底落
- ◇ 細民收入減少
- ◇ シヤボンに課税
- ◇ 朝鮮の大洪水